

松川浦幼稚魚調査による沿岸重要種の資源動向予測

福島県水産試験場相馬支場
平成13～17年福島県水産試験場事業報告書

1 部門名 水産業－資源管理－イシガレイ

分類コード 19-04-42000000

2 担当者 根本芳春・石田敏則

3 要旨

松川浦において平成13年から17年に行われた幼稚魚調査結果から、主要魚種の0歳魚の出現動向を整理するとともに、市場において年齢別漁獲尾数を把握し、松川浦における0歳魚の出現動向とその後の外海における資源動向との関係を検討した。また、近年良好な発生と思われるイシガレイやマコガレイの漁獲実態を明らかにした。

松川浦における0歳魚の出現は、メバルは平成13、16年に多く、14、15年は少なく、17年はその中間であった。アイナメは調査期間中は大きな変化はみられなかった。イシガレイは平成13年がやや多く、14年は少なかったが、15年、16年に増加し、平成17年はさらに多かった。マコガレイは平成15年までは少なかったが、平成16年に増加し、17年はさらに多かった。

メバル、イシガレイ、マコガレイについては、松川浦における0歳魚の出現動向とその後の漁獲加入水準には関係が認められ、松川浦において0歳魚の出現動向を把握することで、その後の外海における資源動向が予測できることが示唆された。よって近年発生が良好であるイシガレイ、マコガレイについては今後、漁獲量が増加すると期待できる。

平成17年12月のイシガレイの年齢別漁獲割合を尾数、重量、金額で比較すると、尾数では1歳魚の割合が84%を占めているのに対し、重量では59%、金額では45%であった。これは価格が安い平成16年生まれの小型魚の漁獲が中心であったためである。また、この傾向は平成16年に発生が良かったマコガレイでもみられた。このことから、現在の資源利用には問題があり、小型魚の保護について方策を検討する必要があると考えられた。

4 その他の資料など

なし